

# 福 井 県

---

## 『福井県教育振興基本計画（案）』に関する 県民パブリックコメントの募集結果

平成27年12月25日  
福井県教育庁教育振興課

今回「福井県教育振興基本計画（案）」について、県民の皆様からご意見を募集したところ、次のようなご意見をいただきました。

県では、いただいたご意見を「福井県教育振興基本計画」の策定および今後の施策の参考にさせていただきます。

- 1 募集期間  
平成27年12月8日（火）～12月21日（月）
- 2 提出件数  
45件（6名）
- 3 提出されたご意見の概要および県の考え方  
別添資料のとおり
- 4 問い合わせ先  
福井県 教育庁 教育振興課 教育企画グループ  
TEL：0776-20-0557  
FAX：0776-20-0670  
E-mail：kyoushin@pref.fukui.lg.jp

福井県教育振興基本計画（案）に関する  
県民パブリックコメント意見の概要と県の考え方

【全般】（5件）

	ご意見	県の考え方
1	<p>これまでの教育方針と、この振興計画による新たな教育方針との大きな違いはなにかあるのか。教育では変わる部分と変わらない部分があるのは当然であり、方針は変わらなくとも具体的な取り組み内容で異なる場合もある。</p> <p>例えば、英数などの習熟度別指導は以前からあるし、土曜日などの特別課外も同様である。</p>	<p>基本理念に示したとおり、接続を重視した福井型 18 年教育を進め、「ていねいな教育」「きたえる教育」など、これまでの福井の良さを活かした教育を進めることに変わりはありません。</p> <p>その上で、子どもたちがふるさと福井への誇りや愛着を持ち、芸術・文化、スポーツなど、一人ひとりの可能性を引き出し、それぞれの得意とする分野での「突破力」を身に付けられる教育を進めていきます。</p>
2	<p>以前進めていた福井型 18 年教育に触れられていないと思うが、位置づけはどうか。</p>	<p>福井型 18 年教育については、計画の基本理念において記載しており、今後もこれまでの良さを活かした教育を進めることとしています。</p> <p>本県独自の保幼小接続カリキュラムの全小学校区での実践や小学校教科担任制による中学校との接続の向上など、引き続き、校種間の接続を大切にした福井型 18 年教育を進めていきます。</p>
3	<p>特に高校については、通常の授業に加え、消費者教育、ボランティア、英検など実施すべきことが非常に多いように思う。数値目標に縛られた、生徒、教員の負担の増加が心配である。</p>	<p>今回の計画では、学校運営の効率化など教員への支援にも配慮しており、スクールカウンセラー等による相談体制の強化や退職教員による学習支援、地域人材との連携強化など外部人材の導入を進めるとともに、校務支援システムの導入など ICT を活用した業務の合理化も進めることとしています。</p> <p>数値目標は計画に基づく施策を進める上での目安として設定したものであり、授業以外の活動も充実し、数値目標ありきではなく、子どもたちが社会で必要な知識や技能を身に付けられるような教育を進めていきます。</p>
4	<p>「受験」「学力テスト」のみの「点数競争学力」を改め、「本当に必要な学力」と「父母・地域が求める生きる力」とは何かを検証し直すべき。</p> <p>「難関校」一辺倒でなく地域で学び成長する環境を支援し、地域の担い手づくりをすることこそが本当に求められているのではないか。また、「高度な専門知識・技能」のみで職業観・労働観を育成する視点がない。</p>	<p>計画では、「ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、自ら学び考え行動する力を育む 教育県・福井」を基本理念に、地域に新たな活力を生み出し、福井の将来を担う人づくりを進めることとしています。</p> <p>小・中学校における企業見学・体験や高校生が県内企業について理解を深める機会を増やしながら、単に大学受験のための学力だけを伸ばすのではなく、芸術・文化、スポーツなど、子どもたち一人ひとりの可能性を引き出し、それぞれの得意とする分野での「突破力」を身に付けられる教育を進めていきます。</p>

	ご意見	県の考え方
5	<p>できる生徒ほど、時間的余裕を与えて、議論や読書、新聞閲覧、美術館・博物館・図書館の活用、自主研究などをさせてほしい。</p> <p>モチベーションが上がり、はるかにいきいきと学習するでしょう。ある意味、自主的なアクティブ・ラーニングとも言える。</p> <p>スローラーナーには、どの教科も今よりもやさしい教材をゆっくりと丁寧に反復させて、それぞれの段階で求められる最低限の基礎学力をしっかりと定着させることが重要である。</p> <p>福井は自然が豊かであり、外に出て、海湖、川、山などでの学習も進めてほしい。</p>	<p>計画では、高校での志望大学別指導の強化、中学校での習熟度別学習の拡充、職業系高校生の意欲向上につながる「福井フューチャーマイスター制度」の導入、定時制高校の教育内容充実など児童・生徒一人ひとりの能力を伸ばすための施策を充実しています。</p> <p>また、「福井型コミュニティ・スクール」の地域人材コーディネート機能を強化し、地域の中で生徒が企画・提案を行う体験学習の充実や里山里海湖研究所等と連携した自然体験の充実に努めます。</p>

【ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる「ふくい創生教育」】（5件）

	ご意見	県の考え方
6	<p>福井で活躍してくれる人材を育成するには、福井の実態（問題点と魅力や誇りなど）を知ってもらうとともに、これからの人間にとって本当に幸福な生活は都会ではなく地方において実現しやすいのだということをいろいろな観点から理解してもらう教育が必要ではないか。そのためには、幸福な暮らしや人生のあり方について考えさせる必要がある。</p>	<p>高校生・中学生が、福井の生活の魅力だけでなく、都会の生活の魅力も知りながら、自らの将来を考える、副教材を活用したライフプラン学習を進めることとしており、教員向けの研修も行いながら、適切な実施に努めます。</p>
7	<p>ライフプラン学習、私の夢カルテというアイデアも特にいいと思う。</p> <p>県内企業訪問の機会の新設はなぜ、普通科系高校生だけが対象なのか少し疑問である。</p>	<p>職業系高校では、すでに全校で企業へのインターンシップを実施しています。</p> <p>普通科系高校生の企業訪問機会の新設は、大学進学を目指す生徒が県内企業への理解を深め、将来、福井に戻って働く意識を高められるようにするための施策です。</p>
8	<p>「福井学」という独自の教科、あるいは科目を導入し、福井県の長所、短所、これから解決すべき課題などを理解させて、また、解決方法などを生徒なりに調べさせ、研究させ、話し合わせて発表させるような実践的な問題解決型学習に慣れさせる必要がある。</p>	<p>計画では、ふるさと福井の自然や伝統、産業などを学び将来の福井を考える人を育てる「ふくい創生教育」を進めます。</p> <p>具体的には、地域における企画・提案型の体験学習の充実やライフプラン学習、新聞などを活用した討論型授業や時事学習の充実などの施策により、福井についての理解を深め、課題解決や実社会での行動につながる能力を育成していきます。</p>
9	<p>こどもたちに夢と希望を持たせるためには親の理解と協力も必要ではないか。そのため、「親子ドリームプランノート」あるいは「親子による夢・希望ノート」を導入してはどうだろうか。親子で協力して、子供の夢や希望を発見し育てる過程をつくり、先生にもチェックしてもらい意見をもらうような仕組みである。これにより、親の考え方や家庭環境も読み取れるのではないか。</p>	<p>基本的な生活習慣の定着や家庭における教育など保護者の役割についての理解を促進することが大切です。</p> <p>このため、計画では、親子で同じ本を読んで感想を交流する親子読書、保護者参加型の道徳教育の拡充、保護者向けの家庭教育パンフレットの作成などの施策を進めることとしています。</p>

10	<p>里山里海湖研究所との連携もいいが、嶺北にとっては遠いため、たとえば福井市だったら足羽山、文殊山など近くの里山などを活用した取り組みをもっと優先して推進すべきではないか。</p>	<p>計画では、里山里海湖研究所と連携した自然体験プログラムの策定に併せ、地域における自然観察や里山体験を充実することとしています。</p>
----	---	--

【夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育】 (9件)

	ご意見	県の考え方
11	<p>P11で「小学校から高校を通じた理数学習を充実することが重要」とあり、このことを否定するものではないが、理数教育が重要とする理由は何か。</p>	<p>計画の現状と課題で示したとおり、小学校から中学校にかけて理科や数学に苦手意識を持ついわゆる「理数離れ」が進んでいます。このため、小学校教科担任制の導入など、より校種間の接続を高め、小学校から高校までの理数教育を充実することとしています。</p>
12	<p>P14で「サイエンス国際科の開設」とあるが、どのような学科なのか。</p>	<p>二州地区における「サイエンス国際科」の設置時期や具体的な教育内容等については、今後、検討を進めていきます。</p>
13	<p>「高い進学目標」による「難関校」対策偏重や「高校ごと学力検査」など「子どもと学校に格差があるのは当たり前」とする教育の格差主義とその選別・差別に勝ち抜く競争主義が学校教育を大きくゆがめている。</p>	<p>高校では、小・中学校において平均的に高い福井の子どもたちの学力をさらに上の段階に引き上げるため、より一層、一人ひとりの個性を伸ばし、自主性を高めるための教育を進め、進学・就職などそれぞれの夢や希望の実現につなげることが大切です。</p>
14	<p>P11に「高校では小・中学校の高い学力を十分に活かしていきれていないため」とあるが、小・中学校と高校ではそもそも学力を測る物差しが違う。高校は何で学力を測るのか。共通一次試験の点数ならば小中学校とは全然捉え方が違うため、同じ土俵に乗せて比べることに無理がある。高校も小中学校と同じようなものさしで比べなおす必要がある。</p>	<p>このため、単に大学受験のための学力だけではなく、知識および技能はもとより思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を含めた総合的な学力を伸ばすとともに、芸術・文化、スポーツなど、子どもたち一人ひとりの可能性を引き出し、それぞれの得意とする分野での「突破力」を身に付けられる教育を進めていきます。</p>
15	<p>P12に「いわゆる難関国立大学への進学希望者の割合は低下しており、より高い目標の実現に向けて」とあるが、難関国立大学への志望または入学が高い目標と考えることに無理がある。大学を出て何をすることが問題で、どこの大学を志望し、どこの大学を卒業しようが関係ない。誰のための高い目標なのかを疑う。他県と比べるためのものでしか目的がないように見られる。</p>	
16	<p>志望大学別入試直前対策とか、土曜特別対策とかはどうかと思う。高校はもとよりそもそも学校は学習塾ではないし、進学予備校ではない。基礎的な学力・応用できる学力、そして自分で自ら計画を立て自主的に意欲を持って学習する力を身につけさせることが目的ではないか。そのための工夫をすべきである。</p>	

ご意見		県の考え方
17	P14に「中学校において教科書に掲載されていない故事成語、漢詩、論語の学習を実施」とあるが、何のために教科書に掲載されていないものを学習させるのか。こんな考えなら、たくさんの知識を身に付けさせることが福井の教育の目標とされてしまうのではないか。考え、判断し選択する力の育成とかけ離れた考えになってくる。	<p>故事成語、漢詩や論語などの学習は、伝統的な題材を活用してことばへの興味・関心を高め、生徒の語彙力や表現力を向上させることを目的としています。</p> <p>学習の際には、子どもたち自身が故事成語の成り立ちを調べ、自らの考えを発表する機会を設けるなど、幅広い知識を身に付けるだけでなく、話し合い活動を充実しています。</p>
18	P19に「福井理数グランプリの参加者数2,000人」とあるが、人数を増やすのはいいが、一人ひとりの興味や関心をはかることができるのか。人数を抑えておいたほうが、審査員も個に応じた対応ができると考える。	<p>計画では、ふくい理数グランプリに小学生部門を新設することとしており、理数学習のすそ野を広げる意味で参加者数について数値目標を設定しています。</p> <p>実施の際には、より一層、参加者一人ひとりを適切に評価できるような対応に努めます。</p>
19	「福井型 18 年教育の基盤となる幼児教育の充実」は、よい響きがあるが、現実、今何が問題になっているのだろうか。幼保での教育が一貫性がなく、小学校の教育カリキュラムにうまく整合してつながっていないということなのだろうか。もしそうなら、そうした意味では、整合性を取る必要はあろう。	<p>幼児期の遊びを通した学びを小学校における学習に円滑に接続し、探究心や自己調整力、粘り強さなど学びに向かう力を育成することが将来の基盤となります。</p> <p>本県では、独自の保幼小接続カリキュラムを策定し、平成 27 年 4 月から全小学校区で実践を始めたところであり、指導者の育成など引き続き体制の充実に努めます。</p>

【社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育】（4件）

ご意見		県の考え方
20	高校生よりも小学生の方が新聞を読んでいる割合が高いが、選挙権年齢が引き下げられたこともあり、年齢が高くなるほど社会情勢についても関心を持つようにするべきではないか。	<p>計画では、新聞などを活用した時事学習や討論型授業の充実など、中学生や高校生の社会への関心を高め、社会参加を進めるための施策を進めることとしています。</p>
21	都会から地方への人材の移転が必要な状態である。こうした時代の転換に地方で役立つ優秀な人材を育てるためには、現実の社会をしっかりと学ばせることが大切ではないか。こうした問題を議論させることが学習の動機づけになる。できる児童生徒ほど、議論が大切であり、議論することにより、自分にどんな基礎知識が足りないかわかる。	
22	<p>自立を促進する最大の方策は、生徒を信頼し、自主性に任せることである。</p> <p>例えば、校則は生徒に自主的に作らせるのが一番ではないか。集団生活に必要なルールは何かを自ら考えさせ、自分で規制させる。</p> <p>学校も一つの現実の社会である。その中でどう統治するかを生徒会を中心にしっかりと考えさせるなどの取り組みが必要ではないか。</p>	<p>計画では、生徒の自主性を高め、自ら行動し、社会に参加することを重視しています。</p> <p>具体的には、生徒会が地域貢献活動の情報を収集してボランティアへの参加を促進する仕組みをつくとともに、県内すべての中学校、高校においてインターネットの適正な利用方法をまとめた「ふくいスマートルール」に基づいて、生徒会において自主的なルールを作成することとしています。</p>

ご意見		県の考え方
23	「福井フューチャーマイスター制度」とは どういったものか。	専門資格取得や検定試験合格をはじめ、コンクールや競技会での入賞実績などを指標化し、生徒の意欲や活力を高めるための制度です。県内産業界と協議しながら、職業系高校生が将来にわたり地元で活躍できるよう支援していきます。

【グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進】（5件）

ご意見		県の考え方
24	担任教諭、全教諭を対象に英語研修をする とあるが、そもそも英語指導は英語担当教諭 がするのが本筋。ちょっと研修して英語を教 えられるものではないと思う。そのような英 語指導はかえってマイナスにもなりかねない。	小学校で英語が教科化されると、担任教諭 が英語を含めた各教科を教えることが原則と なります。このため、小学校英語教科化に対 応した指導力向上が必要です。
25	「話す」「書く」「聞く」「読む」力を着 実に身に付ける必要があるのは、外国語に限 ったことではない。 まずは、日本語で論理的に考え、読み書き 話し出来るようになることが、第一です。 それが出来ないことには何の科目も分野も 理解も進まない。そのことを計画に明確に位 置付けるべきと考える。	計画では、小・中学校を通じた読書活動の 促進や古典学習の充実など国語教育につい ても一層の充実に努めています。
26	ある程度の語学力を求める児童生徒には学 校や家庭で自主的に取り組める語学学習をさ せる時間的余裕を与えることが大切である。 学校には語学学習室を整備し、自分の能力 に合わせていろんな会話教材や読み物など 勉強できる自主学習教室、そこには外国人教 師が常駐しているといいかも。 そして、家ではラジオ、テレビのほか、い ろいろな語学学習教材で勉強してもらおう。こ れに尽きる。語学、特に会話力は本人の努力 がないと修得できない。教えることだけでは 限界がある。	計画では、生徒が昼休みや放課後等に ALT と交流する時間を拡充するとともに、ふるさ と福井のことを外国人に紹介する機会の増加 や留学生の誘致拡充など、実践的な英語を話 す機会を増やすこととしています。 また、保護者向けの講座を行うなど、英語 に自然に触れる家庭環境づくりを支援してい きます。
27	保護者向けの英語教材までつくるのは行き すぎではないか。 テレビなどでも子ども対象の英語の番組が あるかと思うが、それらを視聴することを義 務付けるなどの方法も大いに効果的と考える。 英語に自然に触れられる工夫がされた英 語学習専用教室（英語が自然に使えるような 雰囲気のある教室）を各学校に設置するのも良い と考える。	計画では、家庭に掲示できる場面別の英会 話集などを作成し、親子で英語に親しむ機会 を充実することとしています。 また、英語表示や英語の歌、校内放送など を活用して小学校全体で定期的に英語に触れ る機会を増やしていきます。

ご意見		県の考え方
28	コミュニケーション能力の向上を目指すような記載をすべき。 人前で、分かりやすく簡潔に論理的に話が出来ることが、肝要ではないか。	時事問題などについての討論型の授業やふるさとの先人に関する意見発表等の学習、福井の魅力を英語で外国人に伝える機会の拡充など子どもたちが表現力を伸ばすための施策を進めていきます。

【福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上】（7件）

ご意見		県の考え方
29	ふくい教育博物館は一見聞こえはいいが、まず、作ることは困難だろうし、作っても意義のあるものはできないだろう。	教育研究所の中に設ける「ふくい教育博物館」では、学力・体力トップクラスの本県教育の歴史や独自の取組みを映像・展示により分かりやすく発信していきます。
30	P33に「公立学校教員採用選考試験において、全ての校種、教科で英語資格を加点、中学校、高校の英語化、国語科において中国語資格を加点」とあるが、語学ができればグローバル化に対応できるのか。まずは人との関わりや社会とのつながりを持てる人間を見抜いて採用していくべき。	産業や観光など国内外の交流が進む中で、どの校種においてもツールとしての英語力は必須であり、教員として必要な能力を評価することを前提に、教員採用試験において一定の加点を行うこととしました。 なお、個人面接や集団討論において、コミュニケーション力等のある人材を選考していきます。
31	教員の資質向上には、教員になる前の段階として、大学の教員養成の内容の刷新と充実が最優先だろう。また、教育実習を大学3年から4年まで随時導入する方法を検討してはどうか。	大学の教員養成課程のあり方については、本計画の対象外となりますが、教職大学院等と連携しながら段階ごとの教員の指導力の向上に努めます。
32	高い進学実績を持つ学校へ教員を派遣するとあるが、それをできるだけの余裕が教員の現場にあるのか。	現在も県外の特徴ある学校等への教員派遣を実施しており、引き続き、派遣等を通じ、教員が幅広い知識や経験を持つことは指導力向上のため有益だと考えています。
33	「専門性を持つ外部人材の活用」について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門職の配置は一定評価できるが、特別な支援を必要とする児童・生徒に対する「支援員」の増配置なども不可欠である。 また、教職員の長時間勤務の解消のためには、外部人材ではなく正規教職員の確保と増配置を行わなければ本末転倒である。	校長会などとの意見交換では、スクールカウンセラーによる相談体制の強化、退職教員による学習支援など外部人材の導入、校務支援システムなどICTを活用した業務の合理化などの施策について、学校運営の効率化にも配慮していると評価をいただいています。 さらに、教員の自主的な教育研究活動に対する支援の拡充、教育研究所における通信研修の拡充、教材・資料の提供などの施策を進めることとしており、教員の勤務状況の改善に努めます。 なお、教育費全体の充実や教職員定数改善については、毎年、国に対する要望に努めています。

ご意見		県の考え方
34	<p>「教職員人事評価制度」は中止すべき。本来は教職員同士がチームワークを発揮してこそ効果をあげることができる。教職員評価で「数値目標」による短期間の成果主義が強調され、「進学実績」などの成果が評価となって教育そのものを管理・統制することになり、同僚性を基本とした共同研究など福井の教育の良さが破壊され、教育力低下をもたらすのではないか。</p>	<p>地方公務員法が改正されたことから、平成28年4月には教職員についても人事評価制度を導入する必要があります。</p> <p>教員間のつながりなど、これまでの福井の教育の良さを活かし、能力・実績に基づく人事管理を行い、教職員の主体的な取組みを促すとともに、教育活動を的確に評価し、評価結果を処遇に反映することにより、資質能力・意欲の向上および学校組織の活性化を図ることに努めます。</p>
35	<p>P34に「教職員人事評価制度の運用を開始し」とあるが、今しっかり働いている教員をつぶし、組織を崩壊させてしまう。福井の教育の水準を守り組織で教育を進めるためには、取り入れてはいけない。</p> <p>東京や大阪のうまくいっていない大都市の方法を真似する必要はない。福井のよさを生かし、独自の方策を採るべきではないか。</p>	

【安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進】 (4件)

ご意見		県の考え方
36	<p>いじめについては、生徒同士がお互いの長所を認め合い、尊重し、互助の精神を培う取り組みを展開すべき。</p>	<p>児童・生徒みんなが楽しく通える学校づくりに努めるとともに、道徳の授業などにおける人とのつながりを重視し、お互いを尊重する心を育てる教育を進め、いじめの未然防止を徹底します。</p>
37	<p>高校教育は一部の選抜された者だけでの教育ではなく、最初から高校教育を保障されない子どもたちや様々な事情で高校教育からドロップアウトした子どもたち、高校中退などの課題について一切触れていない。</p> <p>また、特別支援学校・通級や高校に通う特別な支援を必要とする指導対象児童・生徒は増加しているにも関わらず、教職員加配や支援員配置などの施策がない。</p>	<p>今回の計画では、勤労学生の減少や不登校・高校中退を経験した生徒の増加に伴う進路の多様化に対応した定時制高校の教育内容の充実を進めることとしています。</p> <p>特別な支援を要する生徒に対しては、これまでも特別支援教育センターなどによる全県的な支援を行っており、スクールカウンセラー等の配置を進めるとともに、障害の特性に対応した機器を活用した指導を行うなど、さらに充実に努めます。</p> <p>なお、教育費全体の充実や教職員定数改善については、毎年、国に対する要望に努めています。</p>

ご意見		県の考え方
38	<p>不登校など課題を抱える生徒への支援の拡充を求める。</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置は評価できるが、絶対数が少なく対応に限界があるため、さらなる拡充が必要である。</p> <p>日本語を母国語としない生徒への対応について、小中学校までは市町村の支援が一定受けられるが、高校段階では市町村の対応と同等な支援を県から得にくい実態がある。学校現場が求める支援に耳を傾け、その要望に応じて対処すべきである。</p>	<p>計画では、スクールカウンセラー等の配置を進めるとともに、教育研究所の機能・体制を強化することとしており、日本語を母国語としない生徒への対応も含め、より一層の教育相談体制の充実に努めます。</p>
39	<p>こどもの貧困（家庭の経済格差）、こどもの虐待、夫婦不仲、DVなど、家庭での教育環境を十分に把握し、問題のある家庭の児童生徒に水の手を伸ばすシステムが必要ではないか。</p>	

【児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備】（5件）

ご意見		県の考え方
40	<p>P44にある「耐震化の状況」について、数が合わないと思うが誤りではないのか。</p>	<p>記載に誤りがありましたので、修正しました。</p>
41	<p>進路支援対策の拡充を求める。</p> <p>定通制に在籍する進学希望者が進学を断念する理由として最も多いのは、経済的な理由である。学習面での進学対策については、否定しないが、進学するための公的な経済支援が最も必要な対策と考える。</p> <p>また、人とかかわりなどに自信が持てず就職を希望する段階にまで至らない生徒への支援を早急に拡充する必要がある。</p>	<p>大学進学のための奨学金としては、日本学生支援機構の制度や本県独自の奨学金制度を活用することができます。</p> <p>また、学校ジョブコーチの配置を進め、定時制高校においても職場実習の支援を行うなど就労支援の拡充に努めます。</p>
42	<p>「福井型18年教育」の「18年」という数値は、高校卒業までの象徴的な年限である。定通制には、中学を卒業後、4年間じっくり定通制で学び、19才で社会に巣立つ生徒が多くいる。この表現に差別を感じている関係者がいるので、「福井型18年教育」の表現を使用しないことを求める。</p>	<p>福井型18年教育は、幼児期から高校卒業まで、校種間の接続を重視した一貫性のある教育を進めることを示したものであり、その趣旨は定時制高校においても変わるものではありません。</p>

	ご意見	県の考え方
43	<p>「児童・生徒の減少」「適正な学校規模・配置」による小中高校の統廃合は公教育の切り捨てであり、人口減少をあおる。むしろ、小規模校の方が教育効果も大きい。財政効率を優先させ、小規模校でも多様な教育を保障する予算や教職員配置などの条件整備をしない方針は問題である。</p> <p>学校は地域のスポーツ・文化・産業・まちづくりの拠点であり、統廃合をすることは、公的役割の放棄・縮小・切り捨てである。</p> <p>少人数教育のプランを高校においても実現することが必要である。</p> <p>地域高校や定通制高校の統廃合はやめて、学校の規模をできるだけ小さく、小規模校・少人数学級にしていくことである。</p>	<p>生徒数が大きく減少する中、適正な学校規模を確保するためには、現在の高校数を維持することは難しい状況です。</p> <p>平成 21 年に策定した県立高等学校再編整備計画に基づき、再編が進んでいない地域での地区別実施計画を策定し、高校再編による学校・学科の魅力向上に努めます。</p> <p>小・中学校の学校再編は、市町が主体となって進めるものでありますが、県としても、市町が地域住民と十分に議論し、合意を形成した上で決めていくことが大切だと考えています。</p> <p>また、学校再編の際には、教職員の増配置などの支援を拡充し、児童・生徒の教育環境の確保に努めるとともに、住民主体の廃校舎等の利活用を支援することとしています。</p>
44	<p>夜間定時制を切り捨てるな。</p> <p>定通制の生徒は、就学支援金および奨学給付金の申請率は全日制よりも高く、経済的に恵まれていない傾向がみられ、アルバイト等で就労する必要性は全日制の生徒と比べて高く、働く必要性については大きく変わっていない。</p> <p>小さな自治体であっても、各地域において夜に高校教育を受けることができる環境を堅持することが必要ではないか。</p> <p>また、この計画では嶺南地域には夜間定時制が全くなくなる。現時点でも公教育での通信教育も嶺南で学べない。嶺北と嶺南地域の学習環境の格差はますます広がるのではないか。</p>	<p>夜間定時制高校の昼間への移行は、平成 21 年に策定した県立高等学校再編整備計画に基づく、勤労学生の減少や夜間定時制高校の定員充足率減少などの実態に合わせた対応となります。</p> <p>今回の計画では、勤労学生の減少や不登校・高校中退を経験した生徒の増加に伴う進路の多様化に対応した定時制高校の教育内容の充実を進めることとしています。</p>

**【地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実】（1件）**

	ご意見	県の考え方
45	<p>創作活動は、大変重要なことである。これからの地方創成に求められる人材はこうした取り組みにより大いに育てる必要がある。</p> <p>普段の日常生活の中でこうした美術などに触れる仕掛け作りが必要だろう。まず、学校自体がそうした雰囲気環境を整備すべき。絵や彫刻、音楽などに包まれた学校にすること。児童・生徒一人一人に「1 スポーツ・1 創作活動」実践運動をスローガンにしてはどうか。</p>	<p>計画では、弦楽や日本画などを活用した芸術教育を進めるとともに、子どもたちが本物の芸術・文化に触れる機会を充実することとしています。</p> <p>また、ふるさと文学館を拠点に専門家を講師とした「ふくい文学ゼミ」を行い、読書や文学への親しみを創作活動につなげていきます。</p>